

東日本大震災における避難所等への TV 電話による 遠隔健康相談の実施について

阪神淡路大震災など、過去の大震災の事例でも指摘されているように、被災ショックに対しては長期的な心のケアが重要であり、被災直後の緊張感が徐々に緩和されていく局面において、このようなニーズは益々高まっていくものと想定されます。

現在、宮城県栗原市(市長:佐藤 勇)や岩手県遠野市(市長:本田 敏秋)で、NTT 東日本のブロードバンド回線である「フレッツ光」とテレビ電話端末「フレッツフォン」を活用した遠隔健康相談が実施されていますが、これらのプロジェクトを推進されている関係者を中心として、上記のような課題の解決への貢献を目指したボランティアグループ「東日本大震災被災地支援 継続ケア・キュアネットワークプロジェクト(以下C3NP※¹)」が立ち上がっています。

NTT 東日本では、C3NPの活動を支えるため、ブロードバンド回線やテレビ電話端末などの通信環境構築を中心に積極的に協力してまいります。

※1 C3NP (代表:細田 瑛一 自治医科大学名誉教授 榊原記念病院最高顧問、代表補佐:金子 郁容 慶應義塾大学教授)については別紙の趣意書をご参照下さい。

1. 概要

NTT 東日本とC3NPは、被災された方々が精神的な安心感・安定感を少しでも早く取り戻していただくことを目的に、テレビ電話を利用したヘルスケア、メンタルケアの遠隔健康相談※²を無償で提供します。

※2 詳細は【別紙】遠隔健康相談サービスイメージ図をご参照下さい。

2. サービス内容

NTT 東日本より、首都圏の医療機関及び避難所等にブロードバンド回線「フレッツ光」とテレビ電話端末「フレッツフォン」を設置し、C3NPにボランティアとして参加している首都圏の医師・保健師と避難所等をテレビ電話で接続することで、ヘルスケア、メンタルケアの遠隔健康相談を実現します。

本サービスは、既に栗原市や遠野市にて行われています遠隔健康相談と同様のサービスを、このたび被災された方々にご提供するものです。

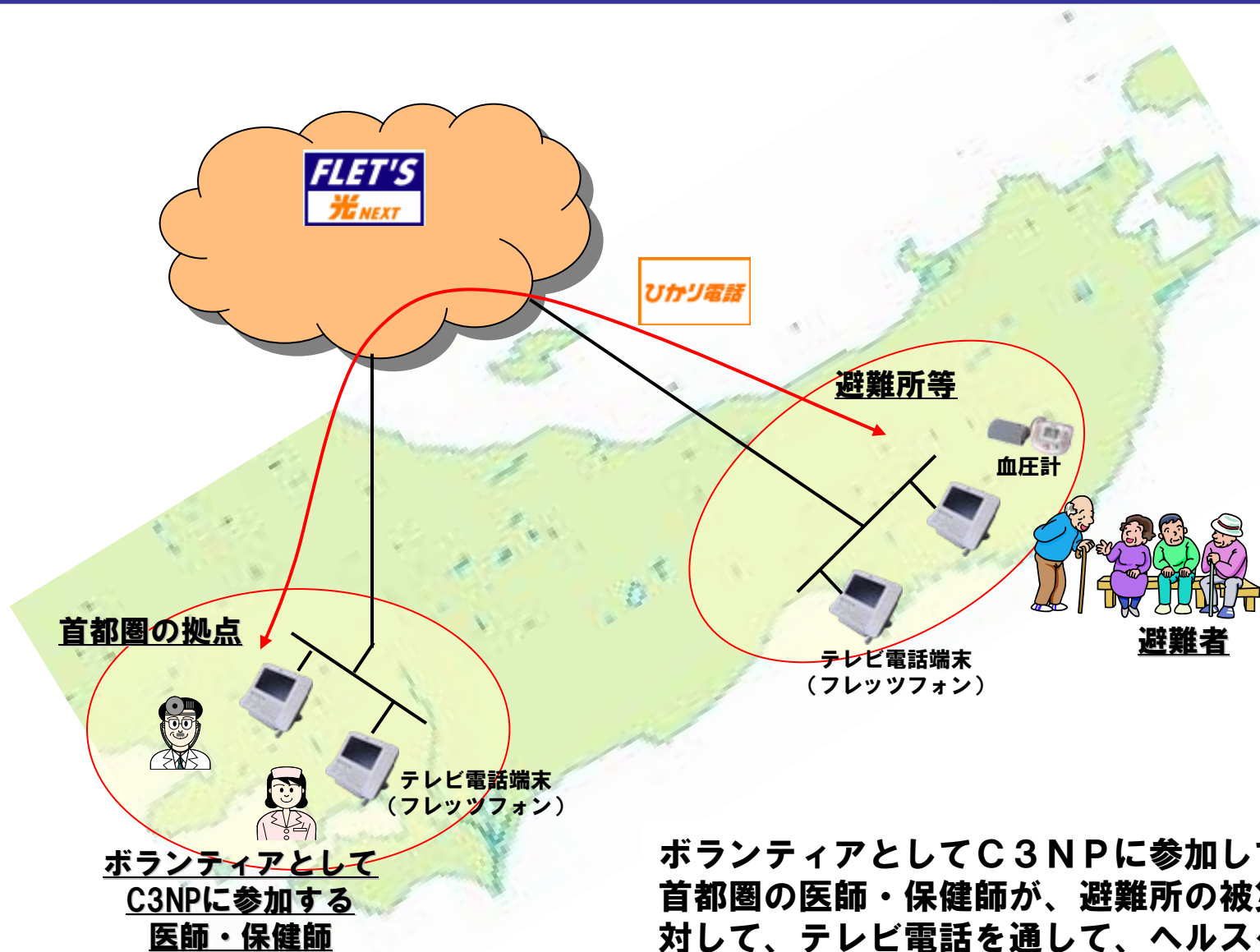
3. 提供時期

4月中を予定しており、準備ができ次第順次提供を開始します。

4. 提供地域

宮城県栗原市および岩手県遠野市の避難所等にて提供予定です。さらにはご要望のある自治体へ、順次拠点を拡大していきます。

(別紙)遠隔健康相談サービスイメージ図



ボランティアとしてC3NPに参加している首都圏の医師・保健師が、避難所の被災者に対して、テレビ電話を通して、ヘルスケア・メンタルケアの健康相談を行います。

東日本大震災被災地支援
継続ケア・キュアネットワークプロジェクト (C3NP)

C3NP : Continuous Care & Cure Network Project

<http://www.c3np.com>

2011年4月12日

趣意書

3月11日に日本を襲った東日本大震災は、広大な地域で想像を絶する多大な被害をもたらしています。日本社会全体が大きなチャレンジを受けていると言えるでしょう。一応の落ち着きを取り戻している被災地があると伝えられていますが、被災者の今後の生活における不安解消の道筋は、まだまったく見えてないのが現状です。特に、高齢者や家族を失った方々にとって、命が助かった事の安堵と、生きることだけに懸命な時期を過ぎ、日が経つにつれて不安と喪失感が増すことも十分に考えられます。災害発生直後とは対象や方法が違う、中長期間に渡る支援が、今後ますます必要になることは間違いありません。

本プロジェクトは、被災者の方々に通常の生活に戻っていただくために、遠隔システムを活用して、体と心の健康のために、医療やケアの相談を継続的に受けさせていただくことを目指しています。今回の震災支援に動いているボランティア、NPO、関係学会、中央・地方行政機関、消防団、自衛隊等の組織や機関との情報共有や連携についても配慮してゆくつもりです。

なお、本プロジェクトが提供する支援は、被災者に無料で利用していただくものです。

□本プロジェクトが対象とする支援フェーズ

大規模災害にかかわる支援は、時間の経過とともに、いくつかのフェーズがあることが知られています。本プロジェクトは、災害発生直後の緊急対応ではなく、電気などの生活インフラがある程度整ってからの生活面を、現地の行政やNPO等と連携して、再興するフェーズにおける中長期的な視点からの健康・医療にかかわる支援を対象とします。

□本プロジェクトが目指すもの

(a) 遠隔システムを使うことで、被災者が生活の場から移動せずに、医師やカウンセラー等に「直接」相談してもらうことで「安心」を得ていただくことや、阪神淡路大震災のときにみられた、長期化する仮設住宅での「孤独死」や「災害関連死」等を未然に防ぐための相談を提供すること等を目指します。

(b) 遠隔医療相談により利用者の健康上の問題をある程度解決することで、医療機関を受診する患者数を減らし、混乱が続くと予想される現地医療機関の負担を減らすことで支援します。

(c) 現地で巡回訪問等をする保健師をはじめ、現地の関係者や関係機関との連携を図り、また、場合によっては重症疾患の状況に応じて遠隔医療拠点への救急搬送の可能性を探るなど、現地の健康・医療体制と連携した健康管理活動の支援をすることを目指します。

□対象地域

当面は、被災地の中で周辺地域の支援拠点となっている、岩手県遠野市と宮城県栗原市からスタートすることを計画中です。被災地でのネットワーク回線設置が進むのに伴って、甚大な被害を受けた地域にも対象を広げてゆきたいと考えています。

□本プロジェクトの組織

本プロジェクトは、以上の趣旨に賛同したボランティアが個人として参加すること、および、医療機関や企業などが組織として協力することで構成されています。C3NP 組織の代表などは以下のとおりです。

代表：細田瑛一 自治医科大学名誉教授、東京女子医科大学名誉教授、日本心臓血圧研究振興会理事長、榊原記念病院最高顧問

代表補佐：金子郁容 慶應義塾大学政策・メディア研究科教授

事務局長：澁谷恭子 エンサイクロメディカ代表取締役 フィリア代表取締役

C3NP の本部は旧榊原記念病院ビル内（東京都渋谷区代々木 2-5-4）に置きます。連絡は info@c3np.com までお願いします。

□呼びかけ人（五十音順）（2011年4月12日現在）

秋山美紀 慶應義塾大学総合政策学部

池本修悟 NPO 事業サポートセンター専務理事（NPO 連携）

伊藤弘人 国立精神・神経医療研究センター（社会精神保健）

井上大輔 東京都福祉保健局、都立広尾病院救急診療科（総合医）

鏡俊一 カウンセラー

笠貫宏 早稲田大学先進理工学研究科教授（循環器内科医、心身医学）

兼間道子 日本ケアシステム協会会長

栗原毅 栗原クリニック院長、慶應大学特任教授（内科医）

佐藤勇 宮城県栗原市長

高山守正 東京都 CCU 連絡協議会会長

武林亨 慶應義塾大学医学部（公衆衛生）

田中尚輝 市民福祉団体全国協議会（福祉 NPO 連携）

友池仁暢 榊原記念病院院長（内科医）

中島民恵子（財）医療経済研究機構主任研究員（介護分野研究者）

中島康 都立広尾病院救急センター医長（救急担当医師、外科医）

中安一幸 北海道大学大学院保健科学研究院客員准教授、厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室室長補佐

長瀧重信 長崎大学名誉教授、放射線影響研究所（旧ABCC）元理事長、国際被曝医療協会名誉会長（内科、甲状腺、被ばく医療）

本田敏秋 岩手県遠野市長

本間聡起 慶應義塾大学医学部（内科医）

水野雅文 東邦大学医学部（精神科医）

村上保夫 榊原記念病院前院長（小児科医）

吉新通康 地域医療振興協会理事長

吉岡俊正 東京女子医科大学副理事長

和田則仁 慶應義塾大学医学部（外科医）

□ 協力医療機関(予定のものを含む)：榊原記念病院、都立広尾病院、他

□ 特別協賛企業：NTT 東日本

□ 協力企業：インテル、NEC、オムロンヘルスケア、ニフティ、リージャー 他